

平成30年度 第2回ISO上層委員会報告会

JSAからのお知らせ ＜ISO発行プロシユア紹介＞



2018年7月17日

一般財団法人 日本規格協会
国際標準化ユニット

鈴木 孝子

ISO資料紹介 (2018年4月以降の新規/改訂分)



URL : https://www.jsa.or.jp/dev/std_shiryoy1/

Home > 規格開発 > 国際標準化支援 > ISO/IECの規定・政策等 > アーカイブ

日付	新/改	タイトル	現状
2018/04	新	ISO仮想規格開発プロセス (ガイダンス文書)	廃止
2018/04	新	ISO仮想規格開発プロセス (電子冊子)	廃止
2018/04	新	ISO環境でのプロジェクト管理手法	活用中
2018/04	新	プロジェクト管理手法 役割、責任及び能力要件	活用中
2018/06	新	ISO Projects 1.2リリースノート	活用中
2018/06	新	ISO Projects上での委員会業務計画に関する説明的注釈	活用中
2018/06	改	★ ISO仮想規格開発プロセス (2018年6月版)	活用中
2018/06	新	★ Zoom会議へのISOクイックガイド&ヘルプ	活用中
2018/07	改	会議遠隔参加ガイドライン (2018年6月版)	活用中
2018/07	新	改訂されたツイニングでの要求事項とプロセス (2018年6月)	活用中
2018/07	改	ISO/IEC専門業務用指針第1部及びISO補足指針 (2018年版)	活用中
2018/07	改	ISO/IEC専門業務用指針第2部 (2018年版)	活用中

直近では、ツールキット (幹事/議長/コンビーナ向け) やツイニング関係プロシユアの更新が予定されている。

ISO Virtual Standards Development Process ガイダンス



IVP

パイロット期間が設けられています（2018～2020）。
2021年以降のISO界は・・・？

ISO Virtual Standards Development Processガイドランス

- TMBコミュニケNo.58(2018/02)で紹介あり
- ガイドランス掲載場所

[🏠](#) > [規格開発](#) > [国際標準化支援](#) > [ISO/IECの規定・政策等](#) > [アーカイブ](#)

【2-2-2】 ISO/IEC 規格・関係文書 作成の参考

> [ISO仮想規格開発プロセス \(2018年6月版\) \(英和対訳\)](#) 
(ISO Virtual Standards Development Process)

一目で分かるISO Virtual Standards Development Processガイドンス

- ✓ 従来のISO委員会組織を構成しない。
- ✓ 対面会議を行わない。
- ✓ IVPの開発テーマは、既存TC/SCのスコープには被らないとする規定がなくなった。
- ✓ IVPでは提案国のリソース要（IVPマネージャー、IVP議長、投票義務）
- ✓ 規格開発期間は18か月か24か月トラックのみ
- ✓ プロジェクト番号はIVP XXX(ISO Virtual Project)

⇒ガイドンス概説は次のスライドより

どんなニーズに対応するため？ (p. 1)

*カッコ内はガイダンスのページ

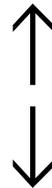
- 将来の規格開発環境は全てのSH(stakeholders)が使えるものでなければならぬ。
 - 規格開発に割ける時間が少なくなってもIVPがあれば可能。
 - SHは既にITプラットフォームに慣れ親しんでいる。
 - 対面式会議のみに生くるにあらず。
 - 規格開発の手段は色々あった方がいい。
- ⇒ISO理事会は、将来の規格開発環境に関するISO理事会AHGの推奨事項を承認 (2016年9月)

仮想規格開発プロセスとは何か？ (p. 2)

- ISO委員会組織を構成しない
 - 対面会議を行わない
- ⇒規格開発の迅速化、低コスト化実現

仮想規格開発プロセス下でのプロジェクト番号

IVP XXX



通常のTC/PC/SC下でのプロジェクト番号

誰がISO仮想プロジェクト（IVP）をリードする のか？（p. 3）

プロジェクトを提案したISO会員団体が指名する

- ISO仮想プロジェクトマネジャー（IVPマネジャー）
- ISO仮想プロジェクト議長（IVP議長）

IVPマネジャーの役割

プロジェクト管理（国際幹事の役割に類似）

IVP議長の役割

通常の議長の役割に類似＋オンラインツールで仮想会議を招集&コンセンサス形成

* 下線が重要

誰がIVPに参加するのか？（p. 3～4）

- NSBまたはリエゾン機関によって指名されたエキスパートが参加
- そのNSBはIVPのPメンバー
→通常のPメンバーと同様の義務を負う、つまり投票義務あり
- NSBはエキスパートを出さなくてもPメンバー権限を要求できる。
- NSB職員はIVPにOメンバーとして参加可能。
- IVPプロジェクトは通常のISOプロジェクトと同様の段階を進む
→NP/DISは必須、必要に応じてCD/FDIS、定期見直し必須
- ISO/IEC DirectivesはほぼIVPプロセスに適用可能。

標準的なプロセスとは何が違うのか？ (p. 5)

- IVPではエキスパートが仮想会議、複数のタイムゾーンで相互交流可能
- オンラインの協働執筆ツールで規格原案の編集等全ての作業をする。
- 開発トラックは18か月または24か月のみ適用できる。

仮想規格開発プロセスを使用する利点は何か？ (p. 6)

- 対面会議出席のための時間と予算の削減
- 各自のペースで作業ができる。
→英語のノンネイティブスピーカーに優しいプロセス
- 成功のカギはオンラインで全ての意見を集約し
コンセンサスを形成すること
→IVPマネジャーのプロジェクト管理の力量、IVP
議長の力量によるところ大。

NSB向けガイダンス (p. 12~14)

- IVPプロセスを使用しようとするNSBは、IVPマネジャーとIVP議長を提供する用意があること。
- IVPに参加するエキスパートを指名したNSBはPメンバーと登録される。
→CD, DIS, FDIS投票義務がある。

IVPとは何か？

ISO技術管理評議会 (TMB) は仮想規格開発プロセスを開発するためにタスクフォースを設立した

なぜ、このプロセス？



- 迅速に(規格開発での時間節約)
- 利害関係者に速く届く
- 低コスト(旅費不要！)

プロジェクトは従来のISOプロジェクトと同じ段階を経る



違いは何か？

- 仮想会議
- 複数のタイムゾーンから同時に参加
- ISO 18か月及び24か月開発トラックのみが適用される

IVPの試行期間は2018年から2020年

誰が使える？

- あらゆる提案者が新業務項目提案 (NP) を提出できる
- TMBチームは、本プロジェクトの有効性確認のため使う

エキスパート集団は電子的な協議集団と考えられる

誰がIVPIに参加する？

- NSBIにより指名されたエキスパート及びCリエゾン組織
- NSB職員

この仮想プロセスを経るプロジェクトはISO仮想プロジェクト (IVP) と呼ばれる

誰がIVPをリードする？

- IVPマネジャー (ISO委員会国際幹事に類似)
- IVP議長 (ISO委員会議長に類似) オンラインツールに精通していること

IVPはエキスパートが標準化に簡単な方法で参加できる機会を提供する

IVPの利点は何か？

- エキスパート1対1の原案に取組むかを選択できる
- 活動資源に優しい環境
- タイムゾーンの柔軟性
- 英語のノンネイティブでも参加が容易

Any Questions... Just Ask!



☆ご清聴ありがとうございました

<お問合せ先>

一般財団法人 日本規格協会
国際標準化ユニット

TEL : (03)4231-8520

E-mail : kokusai3@jisa.or.jp